

東北支所

東北支所長 浅沼 晟吾

「多雪・寒冷地域」の森林・林業」が、これまでの東北支所の研究推進の基本となるキーワードでした。冬季の東北の山地は、積雪量が著しく多い日本海側の地域と、乾いた寒風が厳しく雪が少ない太平洋側の地域とで、際だって対立的な気候環境となります。脊梁の奥羽山地の東斜面を境に、その西・東で森林植生が多雪型と小雪型とに分かれた特徴的生態系があり、スギ植林もその環境の違いにあわせてウラ型・オモテ型の系統に分けて造林してきました。東北地方は、最近人気が高いブナ等の冷温帯広葉樹林が広く残る自然林の多い地域と思われがちですが、東北6県総森林面積448万haのうち天然林は57%・人工林は43%で、ほぼ全国平均なみの状況です。スギ人工林面積の割合では全国平均44%を大きく上回る65%の水準となっていて、特に日本海型気候支配地域では抜群に雪に強い造林樹種としてスギがたくさん植えられました（県別スギ人工林面積では秋田県が全国1位などベスト5に4県も入る）。新たな中期計画では、これまで担当した前記基本キーワードを冠した「研究問題X」が消え、支所組織単独で対外的に明示できる担当研究分野が見えなくなりました。しかしながら我々の研究対象とする森林（特に中齢期となった前述の全国有数のスギ人工林）は、ずうっと多雪・寒冷の環境で生育し続けており、この基本キーワードは今後とも東北支所での研究を特徴づける重要な背景となっているのです。

今年度からの新体制では、これまでの専門分野別の3研究部10研究室から変わって、

○四つの研究チーム長

- ・針葉樹病害研究担当
- ・森林修復研究担当
- ・温暖化影響研究担当
- ・環境教育機能評価研究担当

○六つの研究グループ

- ・森林生態研究
- ・育林技術研究
- ・森林環境研究
- ・生物多様性研究
- ・生物被害研究
- ・森林資源管理研究

の編成となりました。

12月現在の研究実施勢力33名が担当する研究課題は、

○二つの研究項目を責任担当

- ・緑の回廊等森林の適正配置手法の開発（研究分野ア 「森林における生物多様性の保全に関する研究」）

- ・多雪地域森林の機能を持続的に発揮させる管理手法の開発（研究分野工 「多様な公益的機能の総合発揮に関する研究」）

○10の実行課題を責任担当

- ・森林分断化が生態と多様性に与える影響
- ・積雪地域森林流域の環境保全機能の評価
- ・スギ・ヒノキ等病害病原体と被害発生機構
- ・白神山地等森林生態系保全地域とその周辺の動態予測

動態予測

- ・調和的利用を目指した森林情報システム開発
- ・炭素収支の広域マッピング手法
- ・温暖化が積雪地域森林環境に与える影響評価
- ・天然更新過程を利用した森林修復過程解明と動態予測

動態予測

- ・東北地域の大径材生産のための持続的管理技術の高度化

- ・森林性鳥類の地域群集モニタリング

さらにこれに加えて、中期計画全体の研究課題の中で30の実行課題を研究分担しています。また、参画しているプロジェクト研究は、現在18課題となっています。

研究支援態勢は連絡調整室及び庶務課、研究管理運営体制は支所長・研究調整官・地域研究官です。今後は、東北6県、東北森林管理局の秋田本局・青森分局、地域の大学等との連携をよりいっそう強めつつ、東北地方の森林・林業が直面する課題に取り組んで研究成果をあげ、地域で頼りがいある存在として機能していくように努力して参ります